

## 千葉県の水道の概況

### 1. 本県の概況

#### (1) 地 勢

約5,156km<sup>2</sup>(全国28位)

北部は概ね平坦、南部は標高300m級の房総丘陵。

殆どの河川の延長が短く、急流。流域面積小さい。

上水道用のダム等は県内28か所、殆どが南部地域の小規模ダム。

#### (2) 人 口

約605万人

#### (3) 水資源

地理的・地形的条件から水源開発が困難。約66%を利根川水系に依存。

県内の川と水源施設(ダム)



## 2. 県内水道の概況

### (1) 県内水道の沿革

【県営水道】 給水人口 約277万人

S 9 千葉県水道局設立

S11 京葉地域に給水開始

S40年代までに数次にわたり拡張

【市町村営水道】 給水人口 約274万人

企業団方式による6用水供給事業体の設立

(県営水道地域・香取地域を除く)

末端水道事業体の設立

### (2) 現 状(平成17年度)

上水道事業体 50(県営1、市町村営42、企業団営7)

簡易水道事業体 3

水道事業未設置 芝山町



(3) 水道普及状況(平成15年度)

93.2%(全国34位、14年度よりも4万人、2ポイントアップ)

県営水道地域	95.6%	東葛飾地域	95.7%
印旛地域	84.3%	君津地域	98.5%
香取地域	70.3%	東総地域	87.4%
九十九里地域	88.8%	南房総地域	94.3%

(4) 水源・取水・給水の状況及び水需給の見通し

年間取水量 約6億8千万 $m^3$ (平成15年度)

うち、利根川水系 約4億7千万 $m^3$ 、県内河川 約1億 $m^3$

その他地下水 約1億1千万 $m^3$

上水道用水の取得水量のうち、約15%を暫定水利権に依存。

年間給水量 約6億5千万 $m^3$ (平成15年度)

需要用途別内訳(生活用80.5%、業務・営業用15.4%、工場用3.0%)、1人1日平均給水量 324

(5) 家庭用水道料金の現状(平成17年4月1日現在)

【県内最高】

朝夷(企)	251.35円/ $m^3$	} 3.9倍	} 1.60倍	} 1.96倍	} 2.92倍
県内平均	180.18円/ $m^3$				
全国平均	156.98円/ $m^3$				
県営水道	128.50円/ $m^3$				
【県内最低】					
習志野市	86.10円/ $m^3$				
八千代市					

\* 全国平均のみ平成15年度実績

## 県内水道の現状と課題

### 1. 安全・良質な水が飲めるように

#### (1) 安全・良質な水の供給についての現状

16年3月改定の「水質管理計画」に基づく自己検査・共同検査を実施。

残留塩素の低減化対策を実施。

高度浄水処理の導入(県水道局等7事業体)。

鉛管の更新(残存303,908箇所、1,265km)。

普及率 93.2%(全国34位)

#### (2) 安全・良質な水の供給についての課題

安全・良質な水の供給

(水質管理計画に基づく自己検査・共同検査体制の継続的な維持等)

水道の普及促進

## 千葉県の水道



## 2. 水源が確保され、震災等の危機時においても 水が安定供給されるように

### (1) 水需給・安定給水の確保についての現状

年間取水量 約6億8千万 $\text{m}^3$ (約2/3を利根川水系に依存)  
上水道用水の取得水量のうち、暫定水利権  
が約15%。

- ・ 平成27年度までの長期水需給見通しでは、ほぼ需給のバランスが取れている。

#### 危機管理

- ・ 震 災……昭和62年の千葉県東方沖地震により約1万4千戸断水、平成7年の兵庫県南部地震により約89万戸断水。
- ・ 渴 水……平成2, 6, 8年に取水制限30%に至る大渇水、13年に10%の取水制限。

### (2) 水需給・安定給水の確保についての課題

暫定水利権の解消

老朽施設・老朽管の計画的な更新

非常時の応急給水・応急復旧体制の強化

### 3. 将来も変わらず安定した経営が持続できるように

#### (1) 経営・施設・維持管理についての現状

赤字団体数……1用水供給事業体、24水道事業体  
(簡水含めた61事業体中、約41%が赤字)

総費用に占める受水費の割合 25.4%

京葉地域 13.1% ↔ 九十九里地域 55.5%

給水原価 230.84円/m<sup>3</sup>

(全国平均 183.36円/m<sup>3</sup>よりも20.6%高い)

東葛飾地域 194.54円/m<sup>3</sup> ↔ 九十九里地域 342.77円/m<sup>3</sup>

供給単価 208.17円/m<sup>3</sup>

(全国平均 175.17円/m<sup>3</sup>よりも15.9%高い)

東葛飾地域 184.90円/m<sup>3</sup> ↔ 南房総地域 253.74円/m<sup>3</sup>

#### 県の主な財政支援

##### 市町村水道総合対策事業補助金

昭和52年度創設 補助累計 84,449百万円

##### 南房総広域水道用水供給事業施設整備費等補助金

平成3年度創設 補助累計 16,245百万円

##### 南房総広域水道用水供給事業市町村補助金

平成8年度創設 補助累計 1,496百万円

##### 簡易水道施設事業補助金

昭和32年度創設 48年度からの補助累計 4,808百万円

##### 出資・繰出(対県水道局、北千葉(企)、君津(企))

昭和56年度から出資、平成2年度から繰出

用供事業体である北千葉(企)・君津(企)の建設費補助等

合わせて出資・繰出累計 55,099百万円

### 老朽施設・老朽管の更新状況

#### 【浄水施設】

- 6 用水供給事業体で9施設  
昭和50年代以降に整備
- 50 上水道事業体で40施設  
昭和7年から整備  
うち、22施設が昭和30～40年代に整備。

計 49施設

#### 【石綿セメント管】

##### 石綿セメント管更新率

平成15年度 62.3% (対 昭和62年度比)

最大 京葉地域 88.8%

最低 君津地域 27.5%

#### 技術基盤から見た末端水道事業体職員の状況

- ・ 平均職員数 46.7人(うち、技術職 25.9人、55.5%)
- ・ 町村営事業体は、職員数10人以下(うち、技術職5人以下)が大部分。技術職不在の事業体もある。
- ・ 平均経験年数 企業団等15.6年、市町村営9.4年

#### 技術基盤から見た用水供給事業体職員の状況

- ・ 平均職員数 59.0人(うち、技術職 41.7人、70.7%)

\* 県水道局 1,235人(うち、技術職 818人)  
(平成15年度)

(2) 経営・施設・維持管理についての課題

赤字経営からの脱却

小規模水道事業体の経営基盤の強化

老朽施設・老朽管の更新

維持管理における技術基盤の向上